

2024 年度 評価結果報告書



調布市立あおば学童クラブ

(学童クラブ)

株式会社日本生活介護

評価推進機構への報告

1. 福祉サービス第三者評価結果報告書
2. 事業プロフィール
3. 利用者調査 p1~3
4. 組織マネジメント p5~13
5. サービス分析 p15~24
6. 事業者が特に力を入れている取り組み p25
7. 全体の評価講評 p26

評価推進機構への報告



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)基本的な生活習慣を身につけ、自分で考え行動する 2)集団生活の中で社会性を身につける 3)育成を通して様々なことを感じ、考え、それを自己表現する 4)安全・安心な学童クラブ運営 5)施設間の連携 6)中期経営計画の取り組み推進</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりを大切に、安全・安心・快適に過ごすことができるよう、常に改善の意識を持ち、利用者から選ばれる施設運営を目指します。「利用者から選ばれる」東京かたばみ会 ・働く人一人ひとりが心に余裕をもち、働きやすい職場となるよう業務改善を進め、仲間を大切にする法人運営を目指します。「みんなが助け合う」東京かたばみ会 ・働く人一人ひとりの力を伸ばし、挑戦意欲を発揮できる職場となるよう、人材の育成・定着を図ります。「みんなが助け合う」東京かたばみ会 ・やがて土から芽を出し、きれいな花が咲くように、この5年間でしっかりと経営基盤の基礎を固め、持続可能な法人経営を目指します。「しっかり根を張る」東京かたばみ会 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の目線で考え実践できる職員になる。 ・確かな時代認識の上にならって新たな課題に道筋をつけ、責任を持って実行できる職員になる。 ・既存の習慣にとらわれることなく常に幅広い視点から柔軟に改革できる職員になる。 ・福祉の心を念頭にコスト意識をもって行動できる職員になる。

調査対象

登録児童全員を対象とした

調査方法

学童クラブからアンケート用紙を配布し、記入後は返信用封筒に入れ、直接評価機関へ返送していただくか、学童クラブに設置した回収BOXに投函し、学童クラブからまとめて評価機関へ返送していただくこととした。

利用者総数

70

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
70	0	70
70	0	70
100.0	0.0	100.0

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

調査対象者70名全員から回答を得ることができた。

満足度の高い項目として、「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「職員は話し相手や、相談相手になってくれるか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。

総合的な満足度では、59名が「大変満足、満足」、6名が「どちらともいえない」、5名が「不満、大変不満」と回答している。また、「遊ぶものがたくさんあって楽しいです」「大人が話を聞いてくれます」「おもちゃをもっと増やしてほしいです」「おやつをたくさん食べたいです」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	56	8	4	2
56名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。 また、「面白いマンガがあります」「楽しく過ごしています」「以前より楽しくなりました」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	46	8	1	15
46名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「話を聞いてくれて嬉しいです」とのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	59	5	3	3
59名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 また、「楽しいです」「アイスが好きです」などのコメントがあがっている。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	23	9	7	31
23名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」と回答している。 また、「そういう機会がありません」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	44	6	2	18
44名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「ちゃんと説明してくれます」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	18	19	15	18
18名が「はい」、19名が「どちらともいえない」、15名が「いいえ」と回答している。 また、「おもちゃがたぐさんあるところを片づけてほしいです」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	42	5	5	18
42名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	57	3	0	10
57名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	42	8	4	16
42名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	2	3	19
46名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	22	5	10	33
22名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、10名が「いいえ」、33名が「無回答・非該当」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	29	8	4	29
29名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	7	9	48
6名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、9名が「いいえ」、48名が「無回答・非該当」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人の基本理念や基本方針が職員全員に十分に周知と理解がされている 法人の単年度事業計画では、児童部門の基本方針や育成目標、運営の方向性を詳細に示している。この計画は各施設に配布されるとともに、理念については事業所マニュアルにも掲載し、職員が常に意識できるよう工夫している。また、新任職員には採用時の研修で理念や基本方針を学ぶ機会を設け、さらに年に2回の全体会議を通じて、その理解を深め、意識を共有している。この基本方針を基に、毎月の目標を作成し、子どもや職員と共有することで、理念を実現することに取り組んでいる。	
	各会議体を設け、決定事項等の周知の流れを整理して、共通認識を進めている 法人では、「安全・安心な学童クラブ運営」を重点事項として掲げ、リスクマネジメントへの取り組みと、子どもの権利擁護に向けた方針を定めている。これを実現するため、法人主導のもと定期的に施設長会議を開催し、計画の進捗状況を確認するとともに、各施設が抱える課題の解決に向けた議論を行っている。また、各施設の職員会議で挙がった意見や提案は、施設長会議において検討され、現場の状況理解を深めながら、共通の対策を講じることで、サービスの標準化や安全対策の向上につなげている。	
	職員全体で集まる機会を設け、円滑な事業運営に向けて取り組んでいる 学童クラブ全体会は、全正規職員を対象とし、各施設の職員が顔を合わせる場として開催されている。この会では、年度の業務における重点項目を共有するとともに、共通認識を深め、職員間のコミュニケーションを促進することで、協力関係の構築を目指している。また、年度の中頃には2回目の全体会を実施し、遊びをテーマに据えた交流の場を設けている。この会では、職員同士がチームを組み、交流試合などを通じて親睦を深めるとともに、子どもへの遊びの指導力やコミュニケーション能力の向上を図っている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>子どもや保護者、地域のニーズを常に把握した方針の決定をしている</p> <p>定期的な利用者アンケートを実施し、その結果を分析することで、子どもや保護者のニーズを的確に把握している。子どもへはおやつアンケートをはじめとした、様々な意向を汲み取る仕組みがあり、主体性を尊重した対応に努めている。また、市の事業者連絡会や学童クラブあり方検討委員会への参加を通じて、国・都・市の児童健全育成の方向性を踏まえながら、法人としての方針を定めている。さらに、この法人の方針に基づき、放課後児童部門の中期経営計画を策定し、職員全体で各業務を検討しながら、計画の達成に向けた取り組みを進めている。</p> <p>中期計画から各事業所の事業計画の重点項目が設定されている</p> <p>法人の放課後児童部門が定める中期経営計画では、「各施設における子どものケガの発生を最小限に抑え、安全で安心な管理運営に努める」ことを重要なテーマとして掲げている。これを受け、単年度事業計画の学童クラブ全体の重点事項では、「安全・安心な学童クラブ運営」「施設間の連携」「中期経営計画の取り組み推進」の3点を柱とし、具体的な行動を示している。さらに、地域の地区協議会との連携による防犯美化活動や、他の学童クラブとの交流を深め、地域社会の安定と活性化に寄与している。</p> <p>法人の計画が職員に深く認知されており、各事業への理解が十分に進んでいる</p> <p>今回実施した職員自己評価の結果から、法人の中期経営計画や事業所の単年度計画に対する職員の理解度が深いことが明らかになった。これは、学童クラブ全体において、放課後児童部門の方針や事業所の重点事項を定期的に周知・確認していること、正規職員を中心とした情報伝達の仕組みが整えられていることが要因と考えられる。低学年の子どもを中心とした育成支援が行われていることから、子どもの2年生以降の移行先との関係性を維持するための交流を図ることで、支援の連続性を確保している。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

日常的に子どもや保護者の意見や要望を聞き取り、苦情に至らない対応を心掛けている

経営層は、年2回の苦情解決第三者委員会議において、法人内の各事業に寄せられた苦情の内容、解決までの経緯、改善策を報告し、職員全体に周知を行っている。これまで放課後児童部門における苦情の実績はないが、他部門での事例を通じて、解決までの経緯を理解し、事前の防止策を講じることは、質の高いサービス提供において重要な取り組みと位置付けている。また、苦情の対象は子どもや保護者に限らず、地域からの意見も想定し、副校長や市の担当課と情報共有や解決に向けた取り組みを確認している。

定期的な権利擁護に向けた意識付けの取り組みが継続的に行われている

毎年12月の人権週間に合わせて、法人独自に作成した「子どもの人権擁護のためのセルフチェックシート」を各学童クラブ職員全員に実施し、その結果を統計として取りまとめている。このチェックシートは、日常業務や特定の場面での職員の行動を問う内容となっている。その結果は、各施設の会議や学童クラブ全体会において報告され、権利擁護意識の向上や啓発に活用されている。さらに、市の担当課からは、都や市で実施される権利擁護に関する研修の情報が提供されており、放課後児童部門からの指示や職員の希望に応じて、受講が進められている。

地域社会とのつながりを子どもと一緒に経験し、新たな連携や関わりを生み出している

法人は、市内に7つの学童クラブを運営している強みを活かし、各地域の特性を深く理解しながら連携体制の強化に努めている。市の健全育成推進地区委員会や地区協議会などと連携し、地域の行事(お祭りや運動会等)への参加や協力を行っている。また、地区協議会の役割の中で、地域の防犯美化担当となっており、地域住民からの要請により、他の学童クラブの子どもと一緒に街の清掃や見回り活動をするなど、地域との関わりを深める取り組みを積極的に行っている。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>市内の感染状況を十分に把握した上での、各施設の対策と注意喚起を行っている</p> <p>事業計画に「安全・安心な学童クラブ運営」を目標として掲げ、具体的な取り組みとして事故・ケガの防止、感染症予防対策、および避難訓練の実施を定めている。事故防止については、各学童クラブで発生したインシデントレポートを集約・分析し、活動場所の設定や見守り体制の見直しなど、改善策に反映させている。また、市内の感染流行期には注意喚起を各施設に連絡し、事前に対策を行うことで感染症の予防に努めている。低学年の子どもが多いことから、防犯・防災意識を深めることを目的に、訓練等では分かりやすい説明や声掛けに努めている。</p> <p>施設の立地に応じた災害時の計画と体制が整備されている</p> <p>土砂災害警戒区域が周辺を囲んでいることから、近隣の同法人学童クラブと連携した災害対策を設定することで、子どもの安全確保に備えている。また、他の自然災害も想定し、年間で避難訓練を6回実施し、加えて業務アプリを活用したテストメール配信や災害伝言ダイヤルの使用訓練を毎月行っている。さらに、事業継続計画(BCP)における職員の役割について、非常勤職員には特定の役割を設けず、法人のバックアップのもとで行動することが定められている。これらの事項を職員マニュアルに集約し、職員がいつでも確認できるようにしている。</p> <p>電子データの安全管理について、今後は更に取り組んでいきたいとしている</p> <p>市の指導のもと、個人情報の取り扱いや管理方法が徹底されており、定期的な実地検査を受けて運用状況の確認が行われている。法人の規定に基づき、電子データや記録媒体の管理も厳密に行われている。例えば、子どもの写真データはオフラインPCで取り扱い、配信用データに加工する手順が定められており、安全な管理体制が整備されている。業務アプリを通じたお便りの配信を行っているが、子どもの写真は集団の様子を使用するなどして、個人が特定しにくいような配慮をしている。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

適切な職員配置における支援体制を確立し、各施設の特徴を生かした活動をしている

市内の学童クラブ利用のニーズ増加を受け、法人では正規職員の採用を積極的に行っており、これは学童クラブや児童館、保育園などの児童部門の拡充に向けて、次世代の事業の担い手を育成することを目的としている。人員配置は支援単位に応じて適切に行われ、その活動内容に関しては施設長と職員が協力し、方針を定めている。非常勤職員の職員は女性が多いことから、働きやすさを重視し、急な休みなどにも対応可能な人員体制となっている。一方で、低学年の子供が多いことから、育成支援の実践については限定される面も見られている。

法人の方針や職員の意向を踏まえた研修受講を進めている

法人では、正規職員の勤続年数に応じた段階的な研修受講を計画的に進めている。子どもの育成支援に必要な研修については、正規・非常勤を問わず、職員会議などで共に実施し、知識を深めている。これまでの所内研修では、事故防止や緊急時対応を重視し、積極的に実施してきた経緯がある。現場からは、保護者や子どもへの適切な接遇、低学年の子供にも向けた遊びの組み立て方や関わり方について学びたいという要望があり、法人本部へ伝えている。

職員間の交流を通して、組織力の強化やサービスの標準化を図っている

年2回行われる学童クラブ全体会では、1回目に事業の目標・方針の確認や研修、重点事項の確認を行い、職員間での認識を統一している。2回目は、各施設の職員間のコミュニケーションの活性化や、育成支援の技術を共有し、楽しみながら行える場として開催している。この取り組みを通して、学童クラブでの業務やサービスの標準化を図り、異動時にも迅速に組織形成が行える体制を整えている。今後は事業所単位での書類作成の際の統一したルール作りや、現在中堅職員となる人材のマネジメント力の向上に向けて取り組んでいきたいとしている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

法人の中期計画にある4つの柱の実現にむけた事業評価を適正に行うこと。

【取り組み】

外部コンサルタントを活用しながら、四半期ごとの見直しの際に進捗管理を行った。

【取り組みの結果】

A・B・Cの三段階評価により、進捗状況を明確にし、適正な事業評価と課題の抽出を行うことが出来た。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

学童クラブの委託を受けた法人は、市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。その柱は、地域に根ざしたサービスの質の向上、人材の確保・育成・定着、業務の効率化・運営の標準化、新拠点の業務委託を円滑に行うという4つの目標で構成されている。各項目については、外部コンサルタントの助言を受けて、具体策を設定し、学童クラブが設置されている各地域に応じた単年度計画を作成している。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、必要に応じて修正を加えている。各目標に対しては、年次評価を3段階で定め、評価基準はA(計画以上に進捗が確認できた)、B(概ね計画通り)、C(進捗が遅れが見られ、改善が必要)となっており、次年度に向けた課題抽出を行っている。これらのプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、実行に移されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

安全・安心な学童クラブを実現するための事故防止対策を徹底する

【取り組み】

各学童クラブのヒヤリハット・事故報告の内容を分析し、各種マニュアルの改訂とその内容の周知を行う

【取り組みの結果】

児童引き渡しの手順の整理がされたことによる適正な子どもの引き渡しが改善された事、受診につながる事故等の各施設の目標値を設定し、計7施設中6施設が目標を達成した。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業計画において、各施設の重点事項を明確にし、法人の目標である「安全・安心な学童クラブ」の実現に向けて取り組んでいる。特に、受診につながる事故防止と、児童引き渡し時の間違いをなくすことを目標に掲げている。事故防止に関しては、事故やヒヤリハット報告の内容を精査・分析し、その対策を全施設に周知した。また、適正な児童の引き渡しに関しては、使用アプリの使い方や手順を整理し、マニュアルの改訂と職員への周知を行った。この取り組みによって、事故報告や受診に繋がる事故発生件数は減少した。この取り組みは次年度も継続し、発生要因やその対応をさらに精査し、より安全な環境の提供と職員の育成支援に反映させていくこととしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリ1の講評		
視覚的にわかりやすいおたよりで保護者に子どもの様子を伝えている おたよりは、保護者が子どもの様子を知りたいというニーズに応え、写真を多く掲載し、子どもの日々の活動が伝わるよう工夫されている。特に業務アプリによるおたよりは、カラー写真を多く使用しており、視覚的に見やすく、保護者にとってわかりやすい内容となっている。また、業務アプリ内資料室には入会のしおり、保護者会資料、毎月のおたよりが保管されており、保護者はこれらの資料をいつでも確認できる環境が整っている。これにより、保護者は必要な情報を手軽に入手でき、サービス選択に必要な情報がスムーズに提供されている。		
ホームページ等を利用し保護者へのわかりやすいサービス情報提供が行われている 必要な情報を発信し、関係機関との円滑な連携を図っている。また、近隣保育園の散歩コースとして施設を訪問し、子どもたちに実際に遊ぶ機会を提供するなど、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。法人のホームページには、理念や沿革、住所、連絡先、対象児童、定員、開設日、育成時間、地図などの具体的な情報が掲載されており、保護者が必要な情報を簡単に確認できる環境が整えられている。さらに、市のホームページにも施設紹介が掲載され、地域全体に情報が行き渡るよう工夫されており、利用者に必要な情報が提供されている。		
見学要望に対する個別対応と学童クラブの理解を深めるための説明が行われている 問い合わせや見学の要望に対しては、個別の状況を踏まえて柔軟に対応している。見学の要望があった場合、見学を受け入れ、施設長と職員1人のペアで説明を行っている。この際、学童クラブの雰囲気や活動内容を伝えることを重視している。特に、おやつについては保育園との違いがあるため、説明している。また、見学者からは「あそびバ」との交流について質問を受けることが多い。今後は、誰が説明しても同じ内容で漏れなく伝えられるように、説明内容を一覧化したチェックリストを作成し、確認できるようにすることがより効果的だと考えている。		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>保護者のニーズをくみ取り、入会時の情報提供と説明会の実施方法の改善を予定している</p> <p>入会時には、児童に関する情報を記録した書類を保護者に提出してもらい、その情報を基に必要な事項を把握している。また、入会説明会は個別に実施し、書類回収後に質疑応答の時間を設けることで、保護者の心配や疑問点を丁寧に聞き取ることを大切にしてきた。今後は、説明会の形式を一斉説明に変更し、施設長から直接クラブの方針や大切にしていることを伝える場を設ける予定である。その後、書類回収時に個別相談を行う形式に変更することで、全体の情報共有と個別対応をより充実させる取り組みを進めていく予定である。</p> <p>児童、保護者に対する細かい配慮により安心できる環境づくりが実践されている</p> <p>新入会児童については、事前に保育園での聞き取りを実施し、児童の状況や支援方法を把握した上で、情報を関係者と共有している。入会初日には、玄関での迎え入れを行い、同じ保育園の児童を同じ班に配置するなど、子どもが一人ぼっちにならないよう配慮している。さらに、集団遊びを取り入れることで、他の児童との交流を促進し、児童が安心して学童クラブの生活を始められるよう支援している。また、保護者にはお迎え時や業務アプリなどのツールを活用して、学童クラブでの児童の様子を伝え、保護者の不安を軽減できるよう努めている。</p> <p>「あそびバ」などの施設との交流を通じ卒会後の児童、保護者の不安軽減に繋げている</p> <p>普段から「あそびバ」などの施設と日常的に交流を持ち、近隣の学童クラブとも小学校の校庭での遊びや共同事業を通じて、児童同士の交流の機会を提供している。これにより、職員も様々な場面で児童の状況を把握し、児童への理解が進んでいる。また、卒会後も引き続きこれらの施設を利用できることを児童や保護者に伝え、卒会後の生活に対する不安を軽減するよう努めている。日常的な交流があることを伝えることで、保護者にも安心感を提供し、児童が学童クラブを卒会した後もスムーズに次のステップに進めるよう支援している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>育成目標の設定から振り返り、保護者との情報共有までの一貫した活動が行われている</p> <p>毎月のミーティングでは、児童の様子や課題について議論し、育成の方向性や重点事項を職員で共有している。月末には、目標を振り返り、次月の目標に繋げる取り組みを行っている。また、育成の目標や計画については、保護者会で説明を行い、保護者が確認できるように業務アプリ内資料室に保管している。さらに、毎月のお便りにも目標を掲載し、施設内の壁にも掲示し、保護者との情報共有が進んでいる。加えて、法人全体で次年度の方針や目標を決定後学童クラブ独自の目標を設定するなど、目標設定とその達成に向けた一貫した取り組みが実施されている。</p> <p>毎日の情報共有が日々の記録に繋がり、子どもの状況把握に役立っている</p> <p>毎日の打ち合わせで得た情報を共有し、必要に応じて朝礼簿や日誌にその内容を記録している。日誌には、気になる子どもの状況や様子が逐次反映され、職員全員によるミーティングを通じて、前日の様子や課題が共有されている。また、個人面談の記録は、事前に職員間で子どもの交友関係や特性について話し合い、その内容が記録されている。面談当日には、保護者と話し合った内容も記録され、情報が適切に反映されている。今後、場面ごとに共有されている子どもの情報を、児童一人ひとりの記録に集約していく取り組みが望まれる。</p> <p>打ち合わせやミーティングを活用した、職員間の円滑な情報共有が行われている</p> <p>日々の打ち合わせや職員ミーティングを通じて、児童の様子や必要な支援に関する情報交換が行われており、職員間での連携がされている。また、月1回の全体ミーティングが実施され、情報共有の場として機能している。さらに、研修で得た情報や知識は、必要に応じて職員間で共有されている。児童や保護者の状況に変化があった場合は、日々のミーティングでその情報が引き継がれ、共有される体制が整っている。児童の個別の支援が行われるとともに、打ち合わせだけでなく日常的に情報が共有される環境が整備されており、職員間の連携が円滑に進んでいる。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どものプライバシーを守るための具体的な取り組みと職員間の情報共有の仕組みがある 入会時に写真使用について保護者から同意書を取得し、イベント等で写真を撮る際は、必要に応じて保護者に周知し同意を得ている。また、子どものプライバシー保護のため、「人権擁護のためのセルフチェック」を実施し、職員間では個人情報を外部に漏らさないこと、子どもの話を施設外でしないことを共有している。お便りに掲載する写真は全職員でチェックを行っている。さらに、学校への情報提供や他機関との情報共有については、入会説明会で保護者に説明し、子どものプライバシーを守るための環境が整備されている。</p> <p>子どもの意思を尊重した支援と職員間での情報共有を通じた育成の工夫が行われている 育成においては、子どもの人権を意識し、声掛けの方法について定期的に振り返りを行い、適切な対応ができているか確認している。また、「他者の権利を奪ってはならない」というスタンスで、職員間で情報を共有し、子どもへの対応において、互いに注意し合う体制を整えている。さらに、個人面談を通じて家庭での状況や保護者の考え方を把握し、その情報を職員間で共有する機会を設けている。このような取り組みにより、子どもの権利を守り、個々の子どもの意思を尊重した支援が行われている。</p> <p>けんかといじめを明確に区別し、子どもたちが尊重し合える環境づくりを推進している 児童同士のトラブルが発生した際には、それがいじめに発展しないよう適切な指導を行うとともに、児童全体に配慮した声掛けを実施している。また、職員間で情報を共有し、いじめや暴力に対する意識を常に高く保つよう努めている。さらに、職員間では「けんか」と「いじめ」の違いを明確に認識し、その違いを子どもたちにもわかりやすく伝える取り組みを行っている。トラブルが発生した際には、一部の児童だけの問題とせず、お帰りの会などに全体で話し合いを行い、課題を共有してみんなで考えることを重視している。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>現場の変化に対応したマニュアル整備とサービス向上に向けた取り組みが実践されている</p> <p>マニュアルは、全職員が業務中に必要な情報を迅速かつ正確に参照できるよう、すぐ確認できる場所に保管されている。また、提供しているサービスは、法人施設長会議で定期的に点検と見直しを行い、その内容を更新している。今年度は新たに、業務アプリや児童引き渡し時の対応が追加され、現場の状況や社会の変化を踏まえた実践的な内容に改善されている。業務の統一性を保ちながら柔軟な対応が可能な体制を整え、子どもたちや保護者が安心して利用できる環境づくりに努めている。</p> <p>さらなるマニュアルの整備により、円滑な運営の実現が期待される</p> <p>年度末には新年度に向けて入会のしおりの内容を職員で協議し、必要に応じて変更を行い、より良いサービスの提供ができるよう努めている。マニュアルの整備が進み、業務の確認がしやすくなっており、業務の一貫性と精度を高めるための体制づくりが進展している。書類作成や日誌の記入方法については、職員ごとに個性や視点の違いが見られるため、時にはその違いが有益に働くこともある。しかし、安全管理や子どもの遊びに関する最低限の基準が統一されることにより、業務の一貫性が保たれ、さらに効果的で円滑な運営が実現できると考えられる。</p> <p>保護者や子どもの声を基にしたサービス改善と意見受け入れ体制の仕組みがある</p> <p>職員ミーティングを通じて、保護者や子どもからの意見を共有し、職員間で意見交換を行い、その内容を入会のしおりの見直しやサービス改善の判断材料として活用している。また、行政が実施しているアンケートを活用し、保護者の意見を集約してサービス向上に役立てている。施設独自のアンケートは実施していないが、保護者からの説明を求められる機会には対応している。子どもからの意見については、職員が日常的にリサーチを行い、その意見をおやつ内容や行事計画に反映させている。さらに、玄関先に意見箱を設置し、随時意見を受け付けている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>入会前後に保護者と情報を共有し、個人面談を通じて子どもの育成をサポートしている</p> <p>学童クラブでは、入会申請書類で子どもの情報を把握している。入会前には子どもが在籍している保育園に聞き取りを行い、子どもの様子や大人のかかり方を確認している。入会説明会では、提出書類の受け取り時に個別に確認し、保護者から質問、相談等を受けている。必要に応じて別途時間を取って対応することも行っている。入会後は、個人面談を年2回実施し、ほぼ全員の保護者と情報共有することができている。面談内容は面談記録に記載し、職員で情報共有している。子どもの全体的な姿を保護者とともに把握・共有して育成に生かしている。</p> <p>学童クラブでは、班活動を通じて子ども同士の協力と豊かな関係作りを促している</p> <p>おやつや誕生会のゲーム、全体工作などの活動は班ごとに行われ、各班は6～7人で構成されている。班は2～4か月ごとに再編成され、年齢や性別、子ども同士の関係性を考慮し、座る位置も含めて意図的に編成されている。職員は、時には仲の良い子をまとめるなどの配慮を行い、班編成の理由を子どもたちにも説明している。遠足の班編成では、事前アンケートの希望を叶えたり、相性の良い子を同じ班にするなど、子どもたちの意見を尊重している。学童クラブは、子どもたちがお互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに築くための援助をしている。</p> <p>職員は連携してトラブルに対応し、子ども同士を見守り、冷静になるよう配慮している</p> <p>子ども同士のトラブルは、職員が情報を共有し連携して対応している。静養室、事務室、廊下の隅などでクールダウンを促し、子どもが冷静になるよう配慮している。トラブルが発生した際、職員はすぐに介入せず、子どものやり取りを見守り、必要に応じて介入している。どちらが悪いと判定せず、子どもの意見に耳を傾け、時をさかのぼりながら話を聞き、子ども自身が原因を確認できるようにしている。また、感情の高ぶりが収まらない場合には、担当していた職員が交代し、新たに先入観なく最初から話を聞くことで、子どもが冷静になれるように促している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>遊びやおやつの内容は、子どもの意見を反映し、工夫された環境で提供されている</p> <p>遊びやおやつなどの内容については、必要に応じてアンケートを実施して、子どもたちの意見を取り入れながら決定している。4月は、1年生だけで遊ぶ時間が多くなるため、1年生に遊びの希望を聞いて取り入れている。学校の体育館や校庭は、使用できる時にはできるだけ使用させてもらい、体を使った遊びを充実させている。遊具は、子どもたちが「サンタさんへの手紙」で希望したものの中から選ぶなど、提供方法を工夫して整備している。おやつ購入の際は、室内に置いてあるおやつリクエストボックスや、子どもからの聞き取りの内容を参考にしている。</p> <p>職員は子ども同士の関係を把握し、班活動やイベントを工夫して援助している</p> <p>職員は子どもたちの日常の遊びに積極的に参加し、児童同士の関係を把握している。その情報を基に、定期的に班替えを行い、日替わりで当番や掃除を班ごとに担当させるほか、誕生会等のイベントでは班ごとに活動する場面を作っている。遠足の班決めでは、児童の意見を取り入れ、全員がスムーズにグループに入れるよう配慮している。誕生会は月ごとに内容を計画し、クイズやお名前ビンゴなど、子どもの状況により参加しやすい内容を工夫している。また、学校の体育館や校庭を使用させてもらい、ダイナミックな集団遊びが自由にできるよう援助している。</p> <p>月ごとに目標を設定し、子どもや保護者に働きかけて、生活習慣の習得を援助している</p> <p>学童クラブでは、生活の目標と遊びの目標を月ごとに設定し、子どもたちに伝え、保護者にもおたよりで知らせている。例えば、1月の生活の目標は「ロッカーの整理をしよう」「手洗いをしっかりしよう」で、登室時やおやつ前後など、活動の節目で手洗いの声掛けをしている。タオルやハンカチなどの持ち物については保護者にも協力を依頼している。また、必要に応じてロッカー整理をする時間を作り、個別や全体に声掛けをしている。さらに、玩具の片づけがしやすいよう環境整備をするなどして、基本的な生活習慣を習得できるよう援助している。</p>			

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>学童クラブは、子どもの関心を引き出す行事と交流で多様な活動を提供している</p> <p>学童クラブでは、行事の内容は事前に子どもたちに伝え、興味・関心を引き出す声かけを行っている。また、多くの子どもが関心を持てるよう、さまざまな行事を計画している。遠足は参加率が8割以上と高く、子どもたちにとって非常に人気の高い行事となっている。近隣の高齢者施設を少人数で訪問する行事では、子ども自身がおすすめのおもちゃを選定・持参し、遊びのお手伝いをしており、子どもに人気の行事となっている。また、同じ法人で運営する地域内の学童クラブや放課後子供教室と合同事業を開催し、交流を深め、日常の活動に変化を持たせている。</p> <p>子どもの意見を尊重した育成を行い、2年生が主体的に活動する機会を提供している</p> <p>学童クラブでは、夏休み中の午睡時間について、子どもたちの意見を聞き、寝たい子と遊びたい子の双方の希望を取り入れ、パーティションで部屋を区切ることとした。この学童クラブは1、2年生で構成されており、少数の2年生が主体となって企画を進めていくことには難しさがあるが、班活動や誕生会のゲームなどでは2年生が中心となって活動する機会を設けている。また、他の学童クラブや放課後子供教室との合同イベント「〇〇〇〇フェスティバル」では、2年生がゲームコーナーの当番を務め、企画に主体的に関わる経験を積むことができる。</p> <p>行事予定や子どもの様子をおたよりやアプリで保護者に通知し、理解と協力を得ている</p> <p>保護者会や毎月のおたよりで行事の予定を知らせ、子どもたちの真剣な様子や楽しそうな様子を多くの写真で伝えることで、行事への期待感を高めている。行事の詳細については、業務アプリの配信やお迎え時の会話でまめにお知らせし、子どもの行事参加についてのアンケートもアプリで行っている。保護者は非常に協力的であり、行事の実施に関して保護者の理解が得られていると学童クラブでは判断している。保護者に特別な協力を求めるような行事は実施していないが、保護者の理解が得られることで、行事のスムーズな進行が可能となっている。</p>		
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」都型学童クラブ実施要綱】に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが学童クラブで安心して遊び、自立できるように環境を整え援助している</p> <p>子ども自身が降室方法や降室時間を把握できるようにするため、年度当初には朝の出席確認時に帰る時間も確認し、子どもの理解を促している。学童クラブが楽しい場所であるだけでなく、自分自身が「来る場所」「何時に来る」「何をやる」「何時に帰る」と認識できるようにしている。必要に応じて友達関係を作るための働きかけも行い、通い続けられるよう援助している。育成室はパーティションで半分に区切るなどの工夫をして、子どもが安心して遊び込めるように配慮している。時には活動場所を指定し、子どもが活動場所に困らないように援助している。</p> <p>生活時間の区切りを伝え、子どもが見通しを持ち、自主的に過ごせるよう支援している</p> <p>その日の予定は、ホワイトボードに書いたり、掲示で示すなどして、子どもたちが見ればわかるようにしている。4月の初めには、生活時間の区切りごとに、子どもたちに班ごとに座ってもらい、落ち着いた中で次の行動内容を丁寧に伝えている。これにより、子どもたちは自分で生活の流れを理解して行動できるようになっている。イベントの参加希望者を募る際は、小さなホワイトボードに子どもが自分で名前シートを貼り付ける形式にしている。登室後の「静かタイム」では、子どもたちは自分で時計を見て、本読みや宿題、ぬりえなどをすることができている。</p> <p>職員が協力し、放課後子供教室の子どもたちとの自由な交流を促進している</p> <p>施設長は放課後子供教室の施設長も兼任しており、日常的に交流や情報共有が容易な環境が整っている。自由遊びでは子どもたちが自由に行き来できるようにしており、自然な形で交流が促進されている。各施設で異なるおもちゃを配置することで、子どもたちはそれぞれの場所で楽しむことができている。職員は、互いの登録児童を把握するよう努めており、イベント参加に関しても、柔軟に対応できる体制を整えている。また、放課後子供教室や他の学童クラブと連携して、小学校体育館で「〇〇〇〇フェスティバル」といった事業を実施し、交流を深めている。</p>		

5	<p>評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している ○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している ○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている ○非該当
評価項目5の講評	
<p>学校の担任と子どもの情報を共有する機会を設け、学校と連携を図っている</p> <p>学童クラブでは、必要に応じて子どもの様子や気になる点について学校と情報共有を行っている。特に夏休み期間中には、在籍児童の担任との情報共有の機会を設けている。同じ小学校に通う他の学童クラブの子どももいるため、近隣の2学童クラブと合同で実施している。これにより、学校での子どもの様子を把握し、子どもや家庭の理解を深めることに役立っている。学童クラブでは、すべての在籍児童について情報交換を行いたいと考えているが、学校側からは気になる子どもだけに絞るよう要望されているため、情報共有の方法について工夫が求められている。</p> <p>課題を抱える子どもへの支援を、学校や関係機関と連携して実施している</p> <p>夏休み中には各担任との情報共有を行い、気になる子どもについては随時学校と連携し、子どもの気持ちに配慮して対応するよう努めている。学校との情報共有に関しては、朝礼簿に記載している。法人では、課題を抱える子どもへの支援を学童クラブ運営の重点事項の一つとして掲げている。子どもが発信するサインや家庭状況を踏まえて、職員間で情報共有を行い、必要に応じて関係機関と連携して支援を行っている。学童クラブでは、子どもに気になる様子が見られた場合、必要に応じてすぐに子ども家庭支援センターと連携が取れる体制を整えている。</p> <p>関係機関と連携して、発達面や養育環境に配慮した支援を提供できる環境を整えている</p> <p>発達面で配慮が必要な様子が見受けられたり、気になる様子がある児童の育成については、市で行っている巡回相談を利用し、指導を受けることができる仕組みがある。臨床心理士による巡回相談では、子どもの理解や育成方法についてアドバイスを受けることができる。また、養育環境に特に配慮が必要な場合は、児童に気になる様子が見られた際に、速やかに子ども家庭支援センターと連携できる体制を整えている。法人のマニュアルに沿った対応を行い、学校と連携して、子ども家庭支援センター、児童相談所などの関係機関につなげるようにしている。</p>	
6	<p>評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている ○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している ○非該当
評価項目6の講評	
<p>おやつは、学童クラブで子どもたちの好みや安全に配慮して提供されている</p> <p>おやつは、アレルギー対応や子どもの人間関係を考慮して決められた班、席で食べている。当番が準備のできた班をボードに書き、その班の子どもたちが配膳場所に来て順番に受け取り、全班が揃ってから「いただきます」をしている。市販のお菓子のほかに、パンや和菓子、冷凍食品なども提供し、子どもたちが楽しめるよう工夫している。定期的におやつアンケートを行い、子どもたちの意見を取り入れている。お店が多い地域で、子どもたちもよく知っていてリクエストしている。おやつは子どもから見える場所に保管しており、おやつの期待感を高めている。</p> <p>200キロカロリーを目安にして、質と量に配慮したおやつが提供されている</p> <p>おやつは、1日200キロカロリーを基準に、毎日職員がメニューを決めており、その内容は「おやつ提供記録」に記載している。学童クラブの近隣には商店街があるため、様々な内容でおやつを提供することができている。職員は買い出しの際、コストを抑えつつ、質や量を向上させることに努めている。地域の農家から焼き芋を購入することもあり、地産地消も意識している。在籍児童が1、2年生だけであるため、おやつは15時過ぎから提供されている。おやつ後には遊ぶ時間も十分確保されていて、家庭での夕食に支障がない形で実施できている。</p> <p>アレルギー対応は保護者と確認し、提供時にダブルチェックと個別配膳を実施している</p> <p>アレルギーのある子どもについては、入会前に保護者と面談を行い、提供方法や除去内容を確認している。提供に際しては、担当を決め、ダブルチェックを行い、ミスの防止に努めている。アレルギーのある子どもは班のテーブルの横に小さな机を置き、個別に配膳して食べてもらっている。持ち込みを依頼しているおやつについては、一日分を袋に入れてもらい、袋のまま提供している。保護者に、その日に何を食べたかわかるようにするため、包装や食べ残しをその袋に入れて、家庭に持ち帰ってもらっている。麦茶は職員が配るようになっている。</p>	

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>感染症予防や事故防止の声掛けを日常的に行い、子ども自身が意識できるようにしている</p> <p>職員は日常的に子どもに手洗いを促す声掛けを行っており、特に感染症が増える時期には、流行を知らせ、症状や予防法についても伝えている。子どもが手を洗っている様子を確認して個別に丁寧に声掛けをしている。育成中や降室時のけがについても、子どもたち自身に意識させる声掛けをしている。集団降室の際は、子どもたちを落ち着かせてから帰すようにして、帰り道でのけがの予防に努めている。法人内でのけがの情報共有も行っている。性被害については、過剰な接触を避けることや大人に伝えることなどの注意喚起を定期的に行い、防止に努めている。</p> <p>子どもの健康を守るため、専門機関と連携しアレルギー対応や緊急対策を徹底している</p> <p>食物アレルギーに関しては、市の食物アレルギー対応マニュアルを基に、緊急時の対応や関係機関との連携が職員に周知されている。保護者から提出された学校生活指導票の写しにより、アレルギー情報を確認している。また、病院と連携しており、緊急時にはホットラインを活用できる体制を整えている。職員はエビレントレーナーでの使用訓練を行い、緊急時に備えている。アクシデント発生時の対応については、法人の職員マニュアルに予防策や発生時の対応、事例集等が示されており、職員はマニュアルに沿った適切な対応を行えるようにしている。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>延長育成など急な依頼にも対応し、個々の事情に配慮して支援を行っている</p> <p>保護者の就労状況に応じた延長育成に対応し、多様化するニーズに応えられる環境を整備している。また、急な育成依頼にも柔軟に対応できる体制を整えている。業務アプリ等のICTツールを活用することで、保護者からの連絡をスムーズに受け付けるとともに、利便性を高める工夫を実現している。このように、必要なときに確実に受け入れが可能な体制は、保護者に安心感を与えるだけでなく、子どもたちにも安定した生活リズムを提供する基盤となっている。</p> <p>保護者と職員の信頼関係を深め、育成に活かしている</p> <p>職員はお迎え時に子どもの様子を保護者に伝え、保護者との密な連携を図っている。また、個別の相談があった際には職員間で情報を共有し、丁寧に対応することを心がけており、個人面談も実施している。施設としては、保護者と職員の関係が深まることで、子どもから職員への信頼にも良い影響を与え、子どもと職員の関係性が強化されることで、学童クラブ全体がより良い育成環境を提供できると考えている。これにより、保護者と職員との間で確かな信頼が築かれ、子どもたちの成長を支える育成支援が実現している。</p> <p>防犯パトロールを通じた地域とのつながりにより子どもの安全確保がなされている</p> <p>業務アプリを活用し、出欠席や連絡事項の管理を行い、保護者との情報共有を進めている。安全対策の一環として、通常大人だけで行われる防犯パトロールに子どもたちも参加した。子どもたちは防犯パトロールを通じて地域の人々と一緒に活動し、学童クラブの子どもたちを地域の人々に認識してもらう機会を得ている。この結果、地域の人々は学童クラブの子どもたちを見守る意識を高め、子どもたちの安全がより確実に守られるようになった。また、保護者にも地域でのパトロール活動を知ってもらう良い機会となり、保護者の安心感にも繋がっている。</p>		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子ともや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の施設を活用することで、遊びの幅を広げる活動が行われている</p> <p>地域の実篤記念館と連携し、施設見学や工作ワークショップを実施している。記念館見学では、公園の散策なども行っている。また、実篤記念館の職員が来室し、子どもたちと一緒に活動することで、地域の歴史や文化に触れる貴重な体験を提供している。さらに、図書館への定期的な訪問を行い、本の貸し出しや司書による読み聞かせを実施している。加えて、近隣の小学校の校庭を借りて、子どもたちが身体を動かして遊ぶ機会も提供しており、地域との連携を通じて、子どもたちがさまざまな活動を体験できる環境を整えている。</p> <p>異世代交流や縁日への参加を通して地域の人々との交流を育んでいる</p> <p>異世代交流として、高齢者施設で子どもたちが書道などの活動を定期的に行っている。また、土曜日には子どもたちがお気に入りのおもちゃを持参し、施設利用者と共に遊ぶ時間を設けている。これらの活動は、子どもたちにとって大きな楽しみであると同時に、地域の人々との交流を深める重要な場となっている。さらに、学校の縁日では、近隣のわかば学童クラブや東部学童クラブと合同でゲームコーナーを出し、お祭り参加者を楽しませる工夫を行っている。企画から当日の当番まで、子どもたちが主体的に役割を担い、活躍する貴重な機会となっている。</p> <p>あおば学童クラブ、あそびバ、わかば学童クラブが連携し子どもたちの遊びを広げている</p> <p>1階が放課後子供教室「あそびバ」、2階が学童クラブという施設の特徴を活かし、日常的な交流を行っている。それぞれの部屋を行き来できる時間を設定し、遊びや場所や遊びの選択肢を広げるとともに、職員との交流を深めている。また、近隣のわかば学童クラブと小学校の校庭で一緒に遊ぶ取り組みも実施している。あおば学童クラブ卒業後には、あそびバやわかば学童クラブで過ごす児童が多く、継続的な支援につながっている。職員や他の施設の子とも顔見知りになることで、地域との関わりがよりスムーズに進むよう配慮している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
タイトル①	中期経営計画の確実な目標達成に向けて取り組んでいる	
内容①	市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。外部コンサルタントの助言を受け、各地域に応じた単年度計画の作成と具体策の明確化を図り、確実な実行に向けて取り組んでいる。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、次年度に向けた課題抽出を実施している。このプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、確実な達成を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	学童クラブだからこそ体験できる貴重な機会を子どもたちに提供している	
内容②	日々の生活の中で、2年生は主体となって班活動や行事を行い、リーダーシップを培う機会を与えられている。放課後子供教室とは、自由遊びでの利用やイベント参加などを通じて日常的に交流を図っている。地域の施設や団体にも積極的に働きかけ、高齢者や地域の人々と関わる機会を定期的に設けている。さらに、他の学童クラブとの合同行事や市が主催するスポーツ大会への参加を通じて他の学童クラブの子どもたちとも交流できる機会を設けている。遠足や外部講師による行事も含め、学童クラブだからこそ体験できる貴重な機会を子どもたちに提供している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	子どもの意思を尊重し、職員が連携して人権擁護に努める取り組みが行なわれている	
内容③	他人の権利の侵害は許されないという視点を重視し、子どもたちへ人権について具体的に説明している。職員は子どもの権利を尊重し、日々の声掛けや対応で権利を侵害しないよう努めている。また職員同士で気付いた場合は、互いに注意し合う関係がある。さらに声掛けの仕方など、定期的に振り返りを行い育成の質を高めるよう取り組んでいる。年に一度、法人が定める「子どもの人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し、職員ミーティングで確認後法人に提出している。明らかになった課題については、法人から適切なフォローアップが行われている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自治会や協議会との連携を通して、子どもと一緒に活動し、安全な地域社会づくりに取り組んでいる
	内容	事業計画において、防犯や災害対策といったリスクマネジメントに関する方針と具体的な取り組みを明確に定め、各学童クラブに対して実践的な対応を求めている。法人全体では、年間の避難訓練や非常時に使用するツールの訓練を定期的実施し、緊急時の対応力強化に努めている。また、地域の防犯美化担当として、地区協議会と連携した地域の安全活動に積極的に関わっており、子どもや他の学童クラブと協働しながら、地域に根差した防犯・防災意識の向上を図っている。こうした取り組みが地域コミュニティの形成にも寄与している。
2	タイトル	様々な場面で子どもの希望を取り入れ、子どもの意見を主体として学童クラブの生活を組み立てて、子どもが楽しく過ごせる環境を作っている
	内容	4月には、1年生が安心して新しい環境に慣れるために、希望する遊びを取り入れている。夏休み中の午睡については、パーティーで部屋を区切り、午睡をしたい子としない子の両方の希望を叶える対応をしている。おやつはおやつアンケートや直接の聞き取り、おもちゃは、「サンタさんへの手紙」というイベントを通じて希望を聞き取り、適切な提供を心掛けている。遠足の班決めでも子どもの希望を考慮している。こうした様々な場面で子どもたちの意見を尊重し、その生活を主体的に組み立てることで、子どもたちが楽しく過ごせる環境を作っている。
3	タイトル	高齢者施設、文学記念館、図書館、放課後子供教室、児童館、学童クラブ等と多様な活動を展開し、地域交流を積極的に行っている
	内容	学童クラブでは、地域との連携を深める多様な活動を展開している。高齢者施設の訪問事業では、デイケアのプログラムをお手伝いして高齢者と交流している。実篤記念館との交流イベントでは、子どもたちが文学や文化に触れ、親しむ機会を提供している。図書館とは、図書の貸し出しや読み聞かせにより、子どもたちが読書に興味を持つ機会を与えている。放課後子供教室や児童館、他の学童クラブとも行事を実施し、子どもたちの交流の場を地域に広げている。子どもたちに豊かな学びと経験を提供し、地域社会全体の繋がりを強化する取り組みを行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい
	内容	法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。各学童クラブは主に法人本部の児童部門と施設長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネジメント力にも注視し、その育成方法についても検討されることに期待したい。
2	タイトル	子どもたち自身が目標設定と振り返りを通じて、自らの成長を実感し、さらに成長を促す取り組みが望まれる
	内容	毎月の目標は職員間で話し合い決定し、発表・説明するとともに、壁に掲示している。日常では、おやつや行事について子どもたちの意見を吸い上げ、育成に反映させるようにしているが、毎月の目標に関しては職員が決定している状況となっている。今後、子どもたち自身が目標の振り返りに参加することで、具体的な行動や課題を見つける機会が増え、目標達成に向けての意識が高まるとともに、達成感を感じることができるようになると考えられる。こうした取り組みを通じて、子どもたちが自らの成長を実感し、さらに成長を促進することが期待される。
3	タイトル	全ての職員による情報発信と情報共有の仕組みを再度見直し、子どもの安全・安心な生活環境の実現に向けて取り組まれることに期待したい
	内容	施設長と正規職員を中心に、全職員へ情報共有される仕組みが整えられているが、非常勤職員による情報発信や共有については、明確な仕組みが定められていない法人内学童クラブも見受けられる。今回の職員自己評価では、正規・非常勤職員の双方から意見を聞き取った結果、一部の非常勤職員から情報共有に関する課題が挙げられた。このことから、法人全体で非常勤職員間の報告や連絡の体制を整理することで、より働きやすい環境づくりが期待できる。さらに、こうした取り組みは、子どもにとってより安全で安心な生活の場の実現にもつながると考えられる。